

市川自然博物館

10・11月号

(通巻第15号)

だより



～タイアザミ～

アザミは夏から秋にかけて咲くものが多く、赤紫色の派手な花は、紅葉を前にした野山でひときわ目につきます。

タイアザミは、林の縁や草原に生える多年草で、市内ではもっとも普通に見られる種類です。枝先にやや密集してつく頭花は、春に咲くノアザミよりは淡い色で、少し下向きに咲きます。がくのようにみえる部分(総苞)や葉には鋭くとがった刺があり、花にひかれてうっかり手をのばすと痛い目にあわされます。刺を身にまとうことにより、その美しい花を守っているのかもしれない。

特集 街の緑



街路樹は、植えられたものではありませんが、『樹』にふれる機会の少ない市街地の人にとって、ちょっとしたオアシスです。通勤、通学、買い物に、毎日通う道だから、毎日観察してみると、街路樹を通して、四季折々の街の自然が見えてくるはずですよ。

●五感を使って街路樹探検

市内には、約90種の樹木が、街路樹として、また道路わきの緑地に植えられています。



視覚を使って…

イチョウ

市川の街路樹のなかでは、黄葉し、落葉する数少ない種類です。台風が多いと海水の飛沫の影響などで、うまく色づきません。さて、今年の黄葉はどうでしょうか。



触覚を使って…

スズカケノキ

プラタナスともいわれるこの樹は、街路樹として、日本で一番多く使われています。秋、鈴のようになる実もおもしろいですが、モザイク状の樹皮に触ってみるのもいいでしょう。何色の皮がいちばん上にあるかな？



味覚を使って…

マテバシイ

市内でいちばんたくさん植えられています。特に行徳、南行徳地区や湾岸道路以南に多く植えられています。9～10月頃になる大きなドングリを炒って食べると、香ばしくおいしい。お試しを。



嗅覚を使って…

クスノキ

富貴島小前を東西に伸びる道沿いや、行徳駅前などに植えられています。葉を1枚ちぎってにおいをかいでみると、いいかおり。樟脳のおいしさ。



聴覚を使って…

街路樹があると、車の騒音が遮断されて、街のうるささがやわらげられるといわれていますが、あなたの街ではどうですか？

街路樹をみよう



●家のまわりの街路樹マップをつくってみよう！

家のまわりの街路樹マップをつくって、気がついたことを書き入れてみましょう。きっと、あなたの街を見る目が変わることでしょう。

<行徳駅のまわりの街路樹マップ>

④.マテバシイ

9月頃大きな
どんぐりがなっ
ていました。

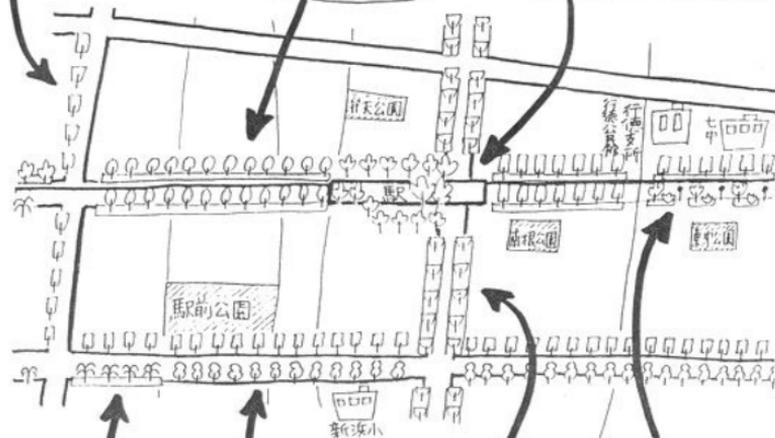
○落葉種
●常緑種

④.タブノキ

葉はマテバシイに
似てますが、冬芽を
みると赤っぽいです。

♡.クスノキ

駅前が改修され、本数が増えま
した。夏にはアオスズメバチが卵
をうみにやっつけていました。
夕方になると、馬前のクスノキを
ねどらにするスズメが集まります。



♣.シダレヤナギ

水辺のイメージ
うたえられることが
多い樹種です。
冬には葉をお
とします。

♀.イチヨウ

残念ながらギンソンの
なる樹種ではないので
すが、黄葉が美しい

♣.ヤマモモ

馬前公園のヤマモモは
6月に真っ赤な実を
つけました。馬前
通りのはどうしてし
ょうか？

♡.ハナミズキ

赤い葉と真っ赤な実
が美しいです。

♡.シヤクナゲ

シルエットが美しいです。



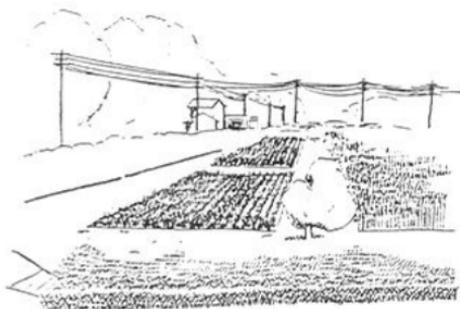
おじゃまします!

街かど自然探訪

大野町・4丁目に残る田んぼの自然

田んぼは、水にかかわって暮らす生物の宝庫です。大野町4丁目の田んぼでは、今でも泥の中にドジョウが住み、わき水が流れる水路の砂にはマシジミが、田んぼに注ぐ小川にはカダヤシやコオイムシが見られます。アメリカザリガニやアカガエル、ダルマガエルといった人気者も生息しています。

市川の低地は、かつて、田んぼがひろがる田園地帯でした。今では、田んぼはほとんどなく、大柏川沿いの大野町一帯、国分川沿いの国分・東国分一帯にわずかに残るだけになってしまいました。



大野町4丁目で見られる田んぼ

大洲・江戸川に群れる都鳥

かつて、隅田川ののどかな流れを象徴した「都鳥」はユリカモメのことで、江戸川や真間川などの河川で今も普通に見ることができます。埋立地に群がって生ゴミを食べることが広く知られるようになりましたが、それでも、純白の体と赤いくちばしの組み合わせは美しいものです。

冬、何百羽というユリカモメが大洲付近の江戸川に群れる様子は壮観で、それが旋回しながら青空へ舞い上がっていく姿には、美しさと同時にある種の不気味さを感じられます。都市に適応しながらも失っていない野性なのかもしれません。

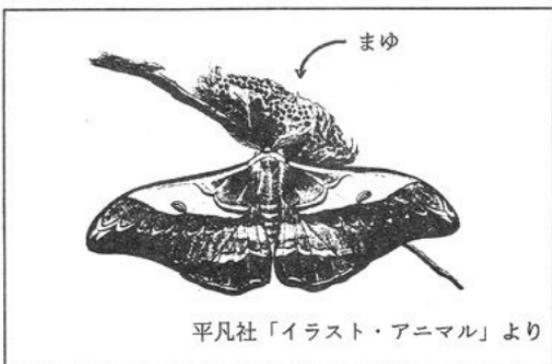


冬の青空にユリカモメがはえる!!

市川のこん虫 クスサン



秋、10月頃になると市内の大町や柏井等の雑木林の近くの電灯で、はねの色が褐色の大きながが止まっているのを見かけることがあります。このがはクスサンというヤマユガの仲間です。「幼虫がクスノキの葉を食べるサン=蚕(かご)」という意味で和名がつけられましたが、クスノキより



平凡社「イラスト・アニマル」より

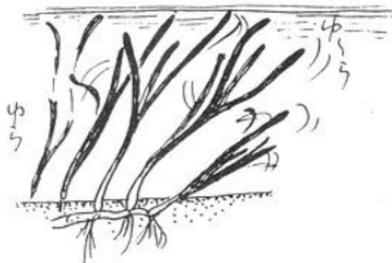
もクリに多くつくようです。クリの木でよくみかける、体に白い毛がたくさん生えている大きな毛虫がクスサンの幼虫で、別名「白髪太郎(しらがりょう)」と呼ばれています。この幼虫の体の中にある絹糸腺(けんしせん)という器官から、昔は魚釣りのときに使ったテグスをとりました。また、まゆは「すかしだわら」と呼ばれます。

むかしの市川～その12～

アマモ

行徳から浦安へかけて、昔は大きな干潟が広がっていました。その岸に近い所にアマモ(別名アジモ)という葉の細長い、柔らかい草が群落を作っていました。引き潮ときにはこの草はべったりと干潟の表面に張り付くように倒れていましたが、潮が上げてくると水の中に葉を広げユラユラとゆれていました。

この草は地下茎を噛むと甘い味がするのでアマモとかアジモとかいう名前がついたのだそうです。“モ”といってもこの草は海藻ではなく顕花植物の单子葉類



の仲間です。花の咲く植物が海水にすっかりつかって生きていることを知ったとき、私は大変びっくりしたものです。

その後、干潟の埋立てによって、この草は姿を消してしまいました。

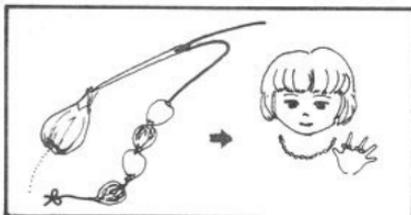
(博物館指導員 玉置善正 記)



夏中にぎやかだったセミの声が変わって、コオロギやクツムシなど秋の虫の声が聞かれるようになりました。湿地や林では植物がたくさんの実をつけて、冬を迎える準備をしています。

観察園の水路の脇に、ジュズダマという草が1mほどの草が生えています。数は多くありませんが、ツヤのある黒や灰色の実がたくさんついているのですぐみつかります。種皮はとても硬いのですが、先端に穴が開いているので簡単に糸を通すことができます。たくさん集め

てつなぐと、なかなかすてきなネックレスや指輪になります。人が取らなければ葉が茶色く枯れてしまう頃になっても実が残っています。そして完全に熟すと、自然にぼろっと落ちてしまいます。



行徳野鳥観察舎

“暑い暑い”と
いううちに

だより

9月6日のお昼すぎ、丸浜川の対岸でしまりに羽づくろいをしているカモを見つけた。望遠鏡をのぞくと、やはりコガモ！ いよいよ冬鳥の到着だ。夜通し飛び続けて着地したばかりかもしれないというのに、2羽のコガモは落ちつきはらって嘴を水にひたしては羽をなでつけている。例年とほぼ同じ日の初認。

のびきっていない翼をひろげては、小魚をくわえた親鳥に走り寄っていたコアジサシのヒナたち、観察舎の電線にずらりと並んで親に餌をねだっていたツバメのヒナたち。無事に旅立ったのだろうか。9月の声を聞くと、鳥の動きが急にあわただしくなってきた。



文と絵・蓮尾純子

きっぱりとした季節の変わり目をむかえ、きびしい残暑がなごり惜しいようなこのごろ。

博物館セミナー1991

とき：10月4日～11月8日（毎週金曜日）
午後6:30～8:30

場所：市川公民館・視聴覚室

博物館の学芸員の日頃の研究の成果をもとに、市川の歴史や自然について一歩ふみこんだ内容で、皆さんにご紹介します。

月 日	内 容	担 当
第1回 10/4	『御用留』の世界 領主から市川の村むらに通達された文書「御用留」を通して、幕末の様々な出来事を紹介します。	吉 田 優 (歴史博物館)
第2回 10/11	もっともっと、トビハゼ トビハゼの、国内および東京湾内での分布について報告し、市内に残る生息地の意義について考えます。	金 子 謙 一 (自然博物館)
第3回 10/18	菅原孝標女 都へのぼる 更級日記に記された都への道中の様子をもとに、古代東海道と市川のかかわりについて考えます。	山 路 直 充 (考古博物館)
第4回 10/25	まちなかで、野鳥をみれば 多くの野鳥が記録されている一方で、都市化が進んでいる市川の環境を、野鳥の生活を通して考えます。	須 藤 治 (自然博物館)
第5回 11/1	もうひとつの“消えた松丸村” 幻の“松丸村”について、今年のセミナー以降わかったことや新たな謎について話を進めていきます。	湯 浅 治 久 (歴史博物館)
第6回 11/8	大柏川水系の遺跡 7～9月に開催した企画展の成果をもとに、先住者たちの暮らしを探っていきます。	領 塚 正 浩 (考古博物館)

受講料は無料です。各回ごとに自然博物館まで、お電話でお申込み下さい。

自然博物館 ☎0473(39)0477

「自然とあそぼう」

1. 日時 10月26日～11月16日 毎週土曜日 4回コース
午後1時30分～4時
2. 場所 自然博物館と、その周辺
3. 内容 第1回 絵地図をつくろう
第2回 草木であそぼう
第3回 自然の中のゲーム
第4回 オリエンテーリング
自然のなかでおもいっきりあそんでみよう！
4. 申込み期間 10/14～10/19
5. 定員 20名
6. 対象 小学校3年生～6年生 全日程出られる方



「11月の自然観察会」

1. 日時 11月10日(日)
午前9時30分～11時30分
2. 場所 大町周辺
3. 内容 地形や露頭の観察
4. 申込み期間 10/28～11/2
5. 定員 20名

*申込み方法

往復ハガキに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ、自然博物館までお送りください(期間内必着)。なお、先着20名様にて締め切らせていただきますので、御了承ください。

***** おしらせ *****

●出版物のご案内

- 『市川の自然』500円(送料210円)
身近な自然に親しむためのガイドブックです
- 『市川の植物』500円(送料175円)
1989年までに記録された市内植物目録です
- 『大町自然観察園』700円(送料210円)
博物館に隣接する自然観察園の総合案内です
- 絵はがきセット(10枚組)500円(送料72円)
市川の12ヶ月を絵はがきにしました

*郵送ご希望の方は、現金書留で代金および送料分の郵便切手を同封のうえ、博物館までお送りください。

●楽しいおたよりお待ちしております
身近な自然に関する情報や、疑問など何でもけっこうです。



次号は12月1日発行

市上市川自然博物館だより
第4巻 6号 (通巻第15号)
発行日/ 平成3年10月1日
編集・発行/ 市上市川自然博物館
〒272 千葉県市川市大町 284番地
☎ 0473(39)0477